

1. 評価報告概要表

作成日 平成22年 2月13日

【評価実施概要】

事業所番号	1072900481
法人名	特定非営利活動法人やぶつかケアサービスセンター
事業所名	グループホームからちご
所在地	太田市大原町2172-6 (電話) 0277-78-9594

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成22年2月10日

【情報提供票より】(平成22年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 5人 非常勤 5人 常勤換算	7.9人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	39,900 円	その他の経費(月額)	光熱水費11,000/月	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
1日1,050円				

(4) 利用者の概要(1月1日現在)

利用者人数	8名	男性	0名	女性	8名
要介護1	0名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 78.6歳	最低	60歳	最高	87歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	室田内科医院 岩崎歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地元で翁草の別名として言われている「からちご」をホーム名としている事業所は、季節毎に馴染みの野菜を食材として取り入れ、調理にもこだわりを持ち、手間を惜しまず入居者一人ひとりが美味しく、確実に食べられるよう工夫に努めている。入居者の状態にあわせ食事をペーストにすることに加え、その物の本来の味を引き出す工夫をしている。このように「食」に対しての惜しみない工夫は、糖尿病の疾患を持つ入居者が、血糖値等が大幅に改善された事例にも現れている。また、理念を反映した「出番療法」「昔話療法」を事業所の特色とし、入居者のレベル低下に対応しながら役割や楽しみ事を提供するなど入居者の出番を引き出すことに努めたり、昔話の語り手である施設長が昔話をしたり、入居者から昔話などを聞きとることにより情緒の安定に努めるなど、その人らしい暮らしを継続できるように、施設長、管理者、職員が共通の認識を持って取り組んでいる。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題については、目標達成計画書を作成し、職員が共有しながら取り組んでいる。運営推進会議は定期開催し、地域の協力者の出席を得ながら出席者の増に繋げている。入居者の役割や楽しみごとの支援については、一人ひとりの生活支援計画を作成し取り組んでいる。重度化や終末期に向けての方針の共有については、方針の統一や共有には至らず、引き続き検討課題となっている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、職員が各項目について意見を記入し、毎週1回開催のミニカンファレンスにおいて意見交換を行い、施設長と管理者がまとめており、全職員が参加のもとに作成されている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、2ヶ月に1回定期的に開催し、地域の協力者(近隣住民、公民館長)の出席を得ながら出席者の増に繋げている。会議は、事業所の行事や入居者の状況などの報告のほか、出席者から事業所のPRについての提言意見が出され実行するなど、活かした取り組みを行っている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が訪問時に意見や苦情など気軽に表せるよう面会時には会話をもつ等、打ち明けやすい雰囲気づくりに配慮している。また、事業所独自に2名の委員からなる第三者委員会を設置し、より一層意見や苦情などを表しやすくするとともに、外部へ表せる機関等の窓口についても、重要事項説明書に明記し、情報提供している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、回覧板などにより地域の情報を得て、入居者の状況などを考慮しながら行事等の参加を考えている。公民館行事等の活用や入居者の出身地元での行事参加なども検討している。事業所のお茶会やクリスマス会などの行事には、地域の小学生やその保護者が訪れ交流が行われている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、開設当初に施設長が作成したものであるが、機会あるごとに職員から理念の内容について意見を求め、確認している。「人とのふれあい」「自然とのふれあい」「地域とのふれあい」の3つを柱とした事業所の独自の理念をつくりあげている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、歩行困難な入居者に対しても、「自然とのふれあい」の必要性から土に親しむ支援に思いを抱いたり、地域の祭りなどを通じてより多くの地域の人々との関わりを考えたりするなど、理念に立ち返り日々の実践に繋げた取り組みをしている。理念の趣旨、内容等について、施設長や管理者が職員に伝えており、理念の共有がされている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧板などにより地域の情報を得て、入居者の状況などを考慮しながら、行事等の参加を考えている。公民館行事等の活用や入居者の出身地元での行事参加なども検討している。事業所のお茶会やクリスマス会などの行事に、地元の小学生やその保護者が訪れ交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員が各項目について意見を記入し、週1回のミニカンファレンスにおいて意見交換を行い、施設長と管理者がまとめあげている。外部評価は、前回の外部評価の課題について目標達成計画書を作成し、職員が共有する中で、運営推進会議の定期的な開催など具体的な改善に取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回定期的に開催し、地元の協力者(近隣住民、公民館長)の出席を得るなど出席者の増に繋げている。会議は、事業所の行事や入居者の状況などの報告のほか、出席者から事業所のPRについての提言意見が出され実行するなど、活かした取り組みが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護受給者の入居もあり、生活保護担当をはじめ関係窓口との連携を図っている。また、市の介護相談員2名が月1回訪問している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりや健康状態について、家族との面会時にその都度報告したり、遠隔地の家族には、必要に応じ連絡している。家族との関係が多様でより一層の関係づくりを目指し、1ヶ月の様子をまとめたものを家族に送ることを検討している。入居者に必要な物品の購入などは、立て替え払いにより領収書を提示し、後日いただいている。職員の離職による交代が生じた時は、面会時に家族に紹介している。	○	家族との関係が多様な状況を鑑み、1ヶ月の様子をまとめたものを作成し家族に送ることで、個々に合わせた家族への報告の徹底と一層の家族との関係づくりを図ることを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問時に意見や苦情などを気軽に表せるように、会話をもつ等打ち明けやすい雰囲気づくりに配慮している。また、事業所独自に2名の委員からなる第三者委員会を設置し、より一層意見や苦情などを表しやすくするとともに、外部者へ表せる機関等の窓口についても、重要事項説明書に明記し、情報提供している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職により新スタッフに代わった場合には、介護を通して入居者の接し方やケア内容などについて施設長や管理者が指導し、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている。管理者は職員の何気ない会話から仕事で行き詰まっていないかや気持ちを伺い、助言する等して離職を最小限に抑える努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画は立てていないが、外部研修はその都度希望を受け積極的に参加できるようにしており、管理者研修、レベルアップ研修、新型インフルエンザ対策研修などに参加している。研修後は、研修報告書を提出し、ミニカンファレンスで伝えたり、閲覧した職員は研修報告書についての感想を併記している。毎週1回開催のミニカンファレンスは、内部研修の役割の一端を持っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加盟し、情報交換の場として活用するほか、レベルアップ研修などに参加し、研修先ホームと自分たちのホームのサービス内容の確認や気づきにも繋がり、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅から入居となる希望者については、事前に本人や家族に見学をしていただき、病院から入居となる希望者については、入院中に病院へ伺い、面談して希望等を聴き、入居後しばらくはかかわりを多くするなど、本人が安心して納得した上で馴染みながらサービスを利用できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者のレベル低下に伴いできることも変化しているが、食事前にテーブルを拭いていただいたりして感謝の気持ちを伝えている。昔話や昔ながらの行事や言葉遣いなどは、施設長が若い職員と入居者のパイプ役となり、教えられたり、教えたりの関係性が年代多様な家族のようで共に暮らし支えあっていると実感している。職員は、気持ちが低下気味の時に入居者との会話により癒されたり、腰をさすっていると入居者が気遣いの言葉をかけるなど、入居者に支えてもらっていると気づくことがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、声かけなどにより入居者の思いや意向の把握に努めている。特に、言葉でうまく表現できない入居者については、入居時の家族からの情報などをアセスメント表に記録したり、日々の入居者の表情などから把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成するに当たり、入居者からは日々のかかわりの中から、家族からは面会時の聞き取りにより、意向を把握している。常勤職員1名が入居者2名を担当し、担当職員が中心となりノートに変化や現状を記入し、ミニカンファレンスで意見を出し合い、ケアマネージャーである管理者がまとめて介護計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書は3ヶ月毎に見直しを実施している。変化が生じたときは、緊急のミニカンファレンスを開き、現状に即した計画書を随時作成している。特に緊急を要するときは、施設長と管理者が家族と連携をとりながら変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	疾病等により通院加療が必要な時に、家族の代理として通院介助をしたり、自宅での用足し、買い物、墓参りなどできるだけ要望に応える柔軟な支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族が希望するかかりつけ医に受診している。希望により、ほとんどの入居者が協力医をかかりつけ医としている。受診に当たっては、日頃の入居者の状況を医師に伝えるようにし、適切な医療が受けられるよう支援している。受診後は、受診記録のほか申し送り等により情報の共有を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者のレベル低下や重度化したケースも含め、日常の介護の流れの中で、その都度家族と話し合っている。また、入居者の生活を支援する上で、「食」を重要な要素として捉え、入居者が食べ物を口から摂取できることを共通の目安として支援に取り組んでいる。しかし、重度化した場合や終末期のあり方についてははっきりした方針は決まっておらず、共有にも至っていない状況である。	○	介護する上で事業所が大切にしている特長をベースに、施設長以下全職員で話し合い確認し合うと共に、入居者家族に対してもよく説明し話し合い、重度化や終末期のあり方について早い段階での方針と共有がなされることを期待する。
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう言葉かけなど、細心の注意を払っている。特に、排泄の誘導時には工夫をし、個々の状況に合わせて対応している。記録等の個人情報の取扱いについては事務所に保管し、管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には一日の流れの中で、生活のリズム感を持ちながら、一人ひとりの体調に配慮し、本人の希望を聞きながら過ごせるように努めている。希望に応じて、自宅への用足し、散歩、買い物など希望にそった支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近隣に施設長所有の畑があり、季節毎に馴染みの野菜を食材として取り入れている。病院食調理の経験を持つ施設長が、手間を惜しまず入居者一人ひとりが美味しく、確実に食べられるよう工夫した家庭的な料理を提供している。職員も入居者と一緒に食事を取っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回、曜日、時間は決まっているが、希望すれば毎日でも入浴することができる。入浴を拒否する入居者には、無理強いせず支援している。また、入浴剤や柚子を入れるなど、楽しめる工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活支援計画を作成し、取り組んでいる。朝の居室のモップかけや昼食前のテーブル拭きなど、できる入居者が行っており、感謝の気持ちを伝えている。また、昔話の語り手である施設長が昔話をしたり、入居者から昔話などを聞いたりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候に応じ、希望者は散歩に出かけている。入居者一人ひとりの希望に合わせ、自宅への用足し、外食、ドライブ、買い物など個別的に外出支援をしている。また、季節には、全員で計画的に、桜、コスモス、菜の花の花見に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関の施錠はしないで、事業所に常時スタッフが居よう心がけ、常に入居者の居場所を把握し、見守りながらのケアを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、5月・11月に消防署と連絡を取りながら、訓練想定に基づき、避難訓練を実施している。事業所のすぐ近くには施設長宅があり、また、近隣住民との協力関係も築かれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、毎日チェックして個人ファイルに記録し、水分量については、1日1,500ccを目安に摂取できるようにしている。水分量が不足しがちな入居者には、好みの飲物を用意し、声かけをしながら摂取量の確保に努めている。食事については、馴染みの季節の野菜を食材に採り入れたり、食べやすくペーストにしたり、工夫しながら栄養摂取に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全館床暖房となっており、居間は日当たりが良く、食卓テーブルの配置と共に、奥にはカーペットが敷かれ、こたつやソファ、テレビが配置され、家庭的な居心地の共用空間となっている。また、居間と居室に挟まれて中庭があり、草花の植栽や椅子やテーブルがあり、入居者の憩いの場にもなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、入居者の安全と利便性を考慮した高さのベッドが配置され、また、事務所との連絡用の電話が備え付けられている。使い慣れたタンスや仏壇などが持ち込まれ、入居者の手づくりの千羽鶴や小物などが飾られ、居心地よく過ごせる配慮がされている。		